

令和6年7月30日

熱中症予防と夏休みの「水遊び・水泳運動の学習」について

中野区立平和の森小学校
校長 山崎 義弘

連日、猛暑が続きます。本日も、昨晚や今朝の早い段階から、「熱中症への警戒を呼びかける情報」が配信されていました。

しかし、私は、この熱中症への警戒を呼びかける情報が、子どもたちの「学習環境」「活動環境」にすぐに結びつくものではないと考えています。ですから、警戒を呼びかける情報が出たから即中止ということはありません。

「プールサイドに水をまく」「プールの水を入れ替える」「こまめに水分補給の時間をとる」「できるだけ水の中に入るよう指導方法を工夫する」などの手立てを講じることで、子どもたちが学習・活動できる環境を整えることができます。現在、毎日のようにこのことを実践しています。このように、子どもたちが学習・活動できる環境を整えるよう努めることも、学校の仕事、私たち教員の仕事であると考えます。

また、本日は、9時～11時半の間、雲が広くかかって長時間日差しがさえぎられ、風も吹いていました。この間、熱中症指数は27度台となり、涼しく感じられました。このように、前日や早朝の「予報」がそのまま、子どもたちが学習・活動する時間帯に当てはまるとは限りません。

夏休みに入り、23日に「水遊び・水泳運動の学習」を始めてから、教員と指導補助員を合わせて5～7名体制で指導に当たり、「環境」「子どもたちの様子」に留意しながら進めています。校長の私も、出張に出た27日の2回め、29日の1・2回を除いて、毎回プールにいるようにして、プールサイド等への水まきを行って環境整備、子どもたちの様子の確認に努めています。私がいなときは、主幹教諭が指導環境を確認しています。

本日の「水遊び・水泳運動の学習」は、2年生が51名、1年生が48名が参加しました。これほどの子どもたちが、プールに入ることを楽しみにして学校に来ています。子どもたちの気持ちを大切にしたいと、私は考えています。

本日、地域の方とおっしゃる方から、「ここ数日プールを行っていることに疑問を感じる」「プールは中止すべきだ」というようなお電話をいただきました。副校長が受け、本校の考え方や取組についてご説明させていただきましたが、「行方べきではない」と電話を切られてしまいました。朝の段階では熱中症への警戒を呼び掛ける情報が出ていましたが、9時～11時半の間には天候が変化したように、一分・一秒変化する中で、できる限り子どもたちが学習・活動できるようにしたいと考えていることにご理解いただきたいと思っています。

もちろん、雷が発生する、豪雨になる、手立てを講じても水温が下がらない、などで子どもたちに危険が及ぶような事態が起きた場合には、子どもたちの安全を第一に考えて中止とします。

子どもたちの安全を第一に考え、その上で、子どもたちが頑張りたいと思う気持ちを大切にしていきたいと思っています。何かご心配・ご不安な点がございましたら、校長までご連絡ください。

引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

長文をお読みいただき、ありがとうございました。